

「この人 95」

稲葉純子 65歳 埼玉県

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

稲 葉 平成二十二年十月頃、夫がNHK俳句通信講座を受講しており、その流れで興味を持ち、俳句を始める契機となりました。今年の一月に所属している結社の初句会で八木会長と出会い、お誘いを受けて二月に入会させていただきました。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

稲 葉 日本古来の伝統俳句に、人間が本来根底に持っているユーモアとペーソスを巧みに、そしてさりげなく表現でき、更にそれが無限の喜びに繋がる場所です。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

稲 葉 全ての大人が遠き昔に忘れて来た純真無垢な心に戻り、瞳に映る風景や現象を柔軟性と斬新さで表現が豊かに導かれていくことだと思います。

編集部 滑稽俳句を続けて良かった事は？

稲 葉 入会させていただいてまだ五ヶ月ですので、滑稽俳句のユニークさと五七五に隠れている人間の持つ喜怒哀楽を少しでもオリジナルに表現出来たらと日々、句作に励んでおります。句作が自身に活力を与え、少しでも精進していければと思っておりますが、型にはまらない思考力が芽生えて来ています。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

稲 葉 この世に存在している全てのことを一度擬人化してみて、そのことがどれだけ今まで他の人が使っていない言葉で表現できるかということに尽きると思っております。

「この人 95」

稲葉純子 65歳 埼玉県

【代表句】

地球の味知りつくしたりなめくじり
去年今年父足す母は無限大
水に底あり空に底なし聖五月
かぶりつくトマトを垂るるビタミンC
不器用にこの世を生きて振り花